



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集記事：

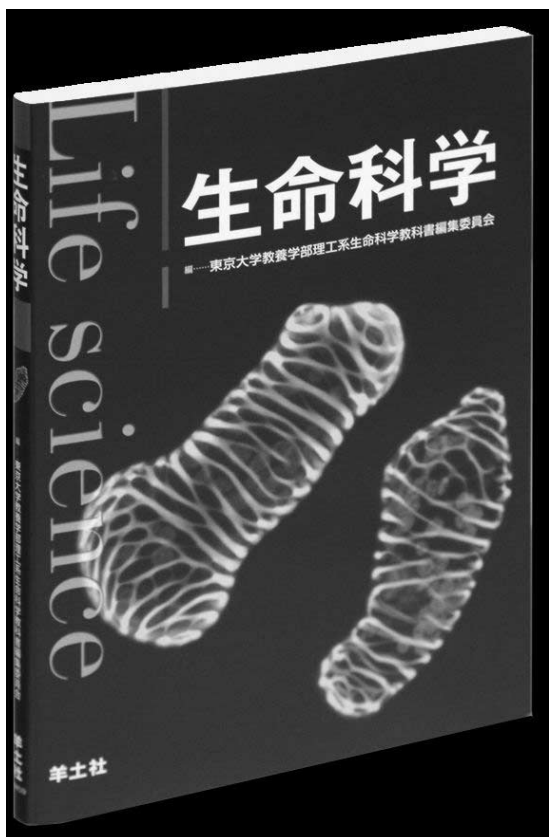
生命科学の知の構造化を目指して
—生命科学教育支援ネットワークの活動

特別付録：本郷キャンパスマップ

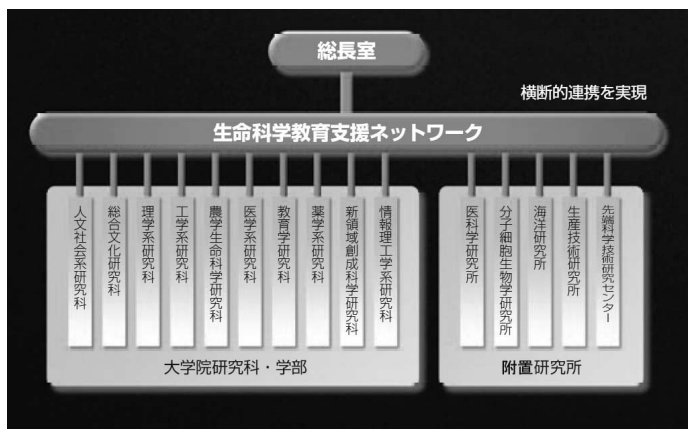
2006.7.12

No. 1340

平成17年10月に総長室直轄の組織として生命科学教育支援ネットワークが設置され、平成18年1月より専任の特任助手2名が着任しました。生命科学教育支援ネットワークは、従来の学問の枠を越え、複雑多様化する生命科学分野の知識を統括・構造化し、東京大学の多数の研究科や研究所に分散する生命科学の教育・研究者全体のネットワークを構築することで、よりよい生命科学教育の実現を目指す組織です。ここではまだ始まったばかりの生命科学教育支援ネットワークのこれまでと今後の活動について、全学の皆様にご紹介したいと思います。



「生命科学(I)」の教科書表紙



「東京大学の生命科学」シンポジウムの開催

4月15日に安田講堂にて開催された「東京大学の生命科学」シンポジウムについては学内広報1336号でも紹介されましたが、生命科学教育支援ネットワークはこのシンポジウムの後援として運営に携わってきました。「東京大学の生命科学」シンポジウムは毎年一回、生命科学教育・研究を行う15の部局の共同で開催され、注目度の高い研究成果を挙げている研究者自らが最先端の研究成果を学内に向けて発信する貴重な機会となっています。今年は第3回目となり、過去最多の約1000人の来聴者を迎えました。大講堂前の廊下では、参加部局・研究所が教育や研究の内容を紹介するブースを設置し、訪れた人々にパンフレットなどを配布し、学部・大学院進学への案内などを行っていました。来年度も4月に安田講堂にて第4回「東京大学の生命科学」シンポジウムを行う予定です。

教養学部前期課程理科 I 類必修科目「生命科学(I)」の教科書の編集

平成18年2月に羊土社から「生命科学」が出版されました。この本は、理科I類において今年度より必修となった「生命科学(I)」の指定教科書となっています。新教育課程により中等教育を受けて入学してきた新生をはじめ、すべての理科系新生が生命科学の基礎を理解できるように配慮されています。売れ行きも好調で、2月25日の第1刷発行から、短期間に増刷を重ね、現在第3刷を発行したところです。また、古書市場では、一時定価の数倍の売値を付け、大学生協の売り上げが理工系部門でランキング1位(4/17~21と5/1~7)となるなど大好評となっています。

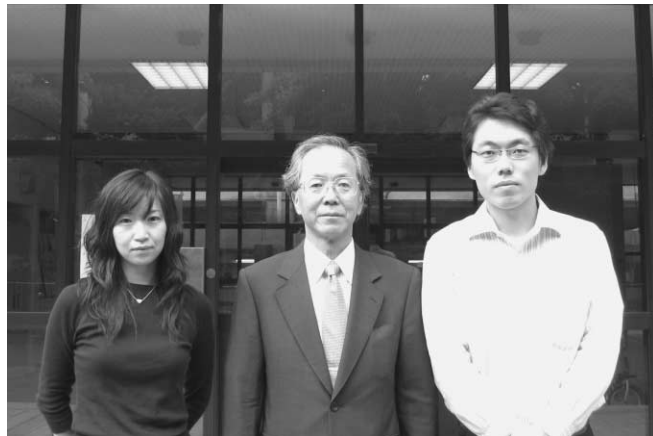
今後も全学の協力を仰ぎ、今年度より教養学部設置された生命科学構造化センターによる「生命科学」教科書の改訂、および理科II類・III類向けの生命科学の教科書の作製を支援していく予定です。

小宮山総長による基調講演



生命科学教育支援ネットワーク室の体制

全学の生命科学教育・研究に携わる15部局（10研究科・5研究所）からの15名の運営委員で構成する生命科学教育支援ネットワーク運営委員会が、生命科学教育支援ネットワークの活動方針を決定しています。活動拠点のネットワーク室は駒場Iキャンパスに設置されており、浅島誠総合文化研究科教授がネットワーク長を務め、専属スタッフとしては、小沼泰子特任助手、辻真吾特任助手の2名が勤務しています。



左から、小沼 泰子 特任助手・浅島 誠 ネットワーク長・辻 真吾 特任助手

教育・研究者ネットワークの構築

東京大学には、生命科学の教育・研究に携わる教員が約1600人在籍しているといわれています。個々の教育・研究は、専門分野の多様性と既存の学問構造を反映し、多数の学部・研究科や研究所に分かれて自律分散的に行われてきました。生命科学教育支援ネットワークではこのような動向を踏まえ、従来の学問の枠を越えた生命科学全体の統括・構造化を進めるため、生命科学の教育・研究に関する情報交換のためのネットワークを構築することを目標にしています。具体的には、今年度発足した生命科学研究ネットワークと協力して、学内で生命科学の教育・研究に携わる方々の名簿を作成し、それぞれの分野にどのような人が活動しているのかを明らかにするとともに、これらの情報をデータベース化することを目指しています。また、データベースの効率的な検索システムを構築することで、東京大学内の生命科学関連情報を学外へ発信する基盤を作っていく予定です。



「東京大学の生命科学」シンポジウム
安田講堂ロビーでの各部局ブース



講義のデジタルアーカイブ化

新領域創成科学研究科（柏キャンパス）において進められている「魅力ある大学院教育」イニシアティブ(文部科学省研究拠点形成費等補助金事業)の「超横断的バイオ人材育成プログラム」と協力し、本学の数々の魅力ある生命科学の講義を収録し、講義時に用いられた資料とともに統合化されたコンテンツを製作しています。これは、先生の講義している映像と実際にプレゼンテーションに使用されたスライドや動画が一つになったものですが、将来はこの内容をネットワークを通じていつでも見られるようにサーバー上で保管・配信するシステムを構築する予定です。生命科学教育支援ネットワークが置かれている駒場Iキャンパスでは、担当教員のご協力のもと、前述の「生命科学」教科書が使用されている理科I類の「生命科学（I）」講義から撮影を進めています。



「東京大学の生命科学」シンポジウム会場の様子

以上、生命科学教育支援ネットワークの活動についてご紹介しましたが、ホームページ (<http://www.lse.u-tokyo.ac.jp/>) を開設しましたので、シンポジウムの様子や教科書など興味を持たれましたら、ぜひアクセスしてください。また、ご意見・ご質問などありましたら、info@lse.u-tokyo.ac.jpまでお気軽にご連絡ください。今後の活動内容についても情報を充実させていきたいと思っています。

問い合わせ先：
生命科学教育支援ネットワーク
辻 真吾 info@lse.u-tokyo.ac.jp

NEWS

一般ニュース

研究協力部

事務職員海外研修報告

一般

本学では、国際交流に熱意のある事務職員を長期間海外に派遣する研修制度を実施しています。このたび平成17年～18年にかけて派遣した者の報告書が提出されたので、供覧します。

平成16年度

東京大学国際交流担当職員海外研修（長期）報告書

教養学部等学生課学生係 平井 健太郎

1. 初めに

「東京大学国際交流担当職員海外研修（長期）」により、平成17年3月22日より平成18年3月20日まで、University of California, Santa Cruz (UCSC、カリフォルニア大学サンタクルズ校)にて語学研修及び実務研修を行った。このような貴重な機会を与えてくださり、大変お世話になった東京大学関係者方々、UCSC関係者方々には心より感謝いたしております。以下その報告をいたします。

2. Santa Cruz (サンタクルズ市) について

サンタクルズ市はカリフォルニア州の北部に位置し、サンフランシスコの南、車で90分ほど、シリコンバレーで有名なサンノゼの南、車で40分ほどのところに位置している。海岸線に沿って町があり、海を中心とした観光を主要産業としている風光明媚な田舎町である。

サンタクルズ市の気温は一年を通じて20度前後であまり変動がなく、雨も1月～3月の雨季を除けばひと月に

1～2回くらいしか降らず、一年を通じてとても爽やかな気候であった。年中温度差はあまりないのだが、日中温度差が大きいので、夏でも朝夕は重ね着が必要である。

中心街は5ブロックほどしかない小さなものであるが、巨大なショッピングモールやスーパーマーケットが郊外にあり、日常生活に関する買い物に関しては、全く不自由することはなかった。

サンタクルズ市は他のカリフォルニア州の都市に比べて、外国からの留学生が数量的、割的に非常に少ないそうである。事実、街中で日本人初め留学生と思いきりに会うことはほとんどなかった。また、サンタクルズの人々は、人懐っこく話し好き、おおらかで細かいことは気にしない性格だったので、私たち外国からの留学生にとってとても暮らしやすい町であった。

治安に関しては非常に安全で、カリフォルニア州の中でも犯罪発生率は極端に低いそうである。よくある犯罪としては自転車盗難くらいで、私も危険な目に遭遇したことは一度もなく、知りうる範囲では犯罪に遭遇したという話も聞かなかった。

以上のように、サンタクルズ市は気候・環境・治安が良く、小さな田舎町ゆえ、あまり娯楽施設がないということもあり、留学するのに最適な街だったと思う。

3. ホームステイについて

私はダウンタウンにあるUCSC Extension (UCSC付属の学校) から歩いて10分ほど、UCSCまで車で20分ほどのところでホームステイをしていた。家族構成はホストファミリー2人の他に、アメリカ人とブラジル人の学生2人と私を含めた計5名であった。

ホームステイ先は渡航前にUCSC Extensionのホームステイコーディネーターに希望を伝えていたため、その希望に合ったホストファミリーが割り当てられていた。

ホームステイは、一ヶ月\$800で食事付、部屋のみ借りるという形にすると\$450～550という家庭が多かった。ただ、部屋のみ借りられるかどうかはホストファミリー次第であり、断られる場合もあった。UCSCの学生寮が食事無しで\$1,300近くするので、ホームステイを選択する留学生が多かった。

たいていのホストファミリーは子供が独立し、空いた部屋をホームステイ用に供給しているため、年配のホストが多い。そのため、食事や就寝の時間がとても早い家が多く、門限を定めているところもあった。また、屋内禁煙という家は多かったが、禁酒という家も中にはあった。部屋も一人部屋が割り当てられる場合もあるし、運悪く(?)留学生数人で部屋を共有することもある。学校から近いところになる場合もあるし、車でしか通学できない距離の家になる場合もある。どのようなホストファミリーに当たるかはこちらでは選択できないので、運頼みでしかないのだが、概してどのホストも学生に対してフレンドリーで、親身に接してくれていた。しかし、語学の問題もあって、ホストファミリーとほとんど会話

も接触もなくなってしまう学生も多い。ホストにとって語学の問題は承知のことなので、積極的にコミュニケーションを図っていくことがうまくやっていく秘訣であると思う。

4. 語学研修について

私はUCSC ExtensionというUCSC付属の学校で春、夏、秋の三期にわたって語学研修を行った。

最初にテストを受け、クラス分けをした。クラスは当初2クラスしかなく、各々のクラスに15人程度の学生が在籍していたが、季節によって学生数も変動し、夏学期には6クラスにもなった。この語学学校に来ていた留学生は韓国人が一番多く、ついで、中国人、台湾人、日本人などアジア系、あとは中南米や非英語圏の欧州諸国からの留学生などで、とても国際色豊かなクラスであった。

授業科目は午前中にGrammar, Writing, Listening & Speaking, Reading & Vocabularyの各必修科目、午後には自由選択科目という形式で、一授業80分であった。どの授業も、先生の講義プラス生徒によるディスカッションやディベートなど、必ず生徒が話す機会が設けられており、日本でいう授業というよりゼミに近いものだった。生徒からの質問も多く、先生からコメントを求められる機会も多いため、どの授業も非常に活発であった。

冬学期からはUCSCの授業を聴講した。科目は政治学と経済学の2科目を聴講した。日本で在学中に履修したことのある科目だったので、何とかなるだろうと思っていたが、受講してみると、そのレベルの高さに圧倒された。Extensionの授業とは違い、先生の話すスピードは各段に速く、毎回何十ページもの教科書の予習が必要だった。その上、宿題も課されるので、2科目しか受講してないにも関わらず、Extensionの授業を受けていたときより格段に忙しかった。特にレジュメなども配布されないので、学生はひたすら授業内容を書き取り、多くの学生がノートパソコンを持ち込み非常に忙しくタイピングしていた。また、授業が開講してからしばらく経っても学生数はほとんど減ることなく、学生はみな必死に授業を受けており、アメリカの大学は日本の大学に比べて入学するのは簡単だが、卒業するのが難しいという現実を体験することができた。

5. 実務研修について

私は9月よりUCSCのEAP (Education Abroad Program) Office (以下EAPオフィス) というところで、半年間実務研修を行った。Education Abroad Programというのは、UCSCの学生が外国へ留学するためのプログラムのことである。このプログラムにより留学可能な国は33カ国にわたり、短いもので一学期、最大一年間の期間に及ぶ全140以上の多彩なプログラムがある。このプログラムの最大の特徴として、留学先の大学で取得した単位をUCSCの単位として互換出来るということがあげられる。そのため、毎年多数の学生の応募がある。

EAPオフィスでは、このプログラムを志望する学生に各国の国/大学情報の提供、留学を志望する学生のコンサルティング、留学生の選考、留学中のサポートなどをその業務としていた。

私はこのオフィスで、International Internとして他の学生インターンと一緒に働くこととなった。学生インターンは以前にEAPプログラムを利用したことのある学生によるアルバイトで、電話対応、メールチェック、窓口対応やその他の雑務を行っている。彼らは自らの体験を生かしてオフィスの職員より学生に近い立場で接することが出来るので、EAPプログラムの間口を広げる援助になっていたと思う。

このオフィスにおける学生への対応は親身でフレンドリーであり、来所した学生の相談にじっくり時間を割いていた。オフィスは入り口ドアが9時半から16時まで開放されており、窓口というものが無いので学生はオフィス内を自由に行き来できた。オフィス内にはコンピューター室及び資料閲覧室があり、学生はここも自由に利用することが出来た。オフィス内での飲食雑談は自由で、季節やイベントごとに模様替えも行われ、学生はとても気軽にオフィスを利用することが出来た。学生にとって利用しやすい環境づくりがとても上手だったと思う。

また、EAPプログラムにおいて、さまざまな申請用紙や応募書類などは、Webを通して取得可能で、その申請や応募もWeb上で可能だった。また、メールや電話でもアドバイザーによるコンサルティングを受けられ、学生が来所する必要は最小限となっていた。

オフィス内は縦割りではなく、学生インターンと職員との関係も密で、意見等あれば積極的に出せる環境だった。さらに週一回、職員会議、Peerアドバイザー会議の2つの定例会議があり、活発に意見交換が行われる。この会議で話題にのぼったことはすぐに修正改善されていた。とにかく、提案があったらすぐに実行に移り、煩雑な書面等のやり取りもなかった。最初から完璧なものを考案するわけではなく、まずは実行に移して、それで問題があれば改良を加えていくという進め方は、とても合理的であると感じた。



EAPオフィスのスタッフたちと（最前列中央が平井研修生）

6. 終わりに

半年間に及ぶ語学学校の語学研修では、当初まったく心もとなかった私の英語のレベルを、ネイティブスピーカーともうにか意思疎通できるレベルまで引き上げてくれた。また、世界各国の学生と知り合えたことにより、世界から日本はどのように見られているか、また逆に自分が世界をいかに固定観念で見ていたかを知ることが出来た。

実務研修やUCSCの授業聴講を通じて、語学学校で話されていたものとは違う自然な速度の英語に触れることができ、ここで飛躍的に自分の英語力は伸びたと思う。また、きちんと学生の視点に立って仕事を進めていることや、能動的な仕事への取り組みはぜひ見習いたい。煩雑な書類の行き交いや無駄な会議もなく、合理的に仕事を進めていくところは必ず取り入れるべき点であると思う。

今後は本研修を通じて得た経験を、様々な面で活かしていきたい。

* なお、現在本制度で海外へ派遣されている事務職員は以下のとおり。()内は派遣前所属部局。

上田 桃子 (施設部整備課建築整備チーム)

派遣先：カリフォルニア大学サンタバーバラ校(米国)

派遣期間：平成18年3月28日～平成19年3月15日

渡邊 千尋 (研究協力部留学生課支援チーム)

派遣先：カリフォルニア大学アーバイン校(米国)

派遣期間：平成18年3月30日～平成19年3月23日

事務職員の海外長期研修プログラムとしては以下のものがありますので、詳細については国際課研究活動支援チームまでお問合せください。

- ・ 東京大学国際交流担当職員海外研修(長期)
- ・ 文部科学省国際教育交流担当職員長期研修プログラム
- ・ 日本学術振興会国際学術交流研修
- ・ 日本学術振興会研究連絡センター事務官派遣
- ・ 中国政府奨学金留学生(行政官派遣)
- ・ 日墨研修生・学生等交流計画派遣生

環境安全本部

体験型防災訓練(主催：本郷消防署) 開催される

6月19日(月)12:00から、本郷消防署による体験型防災訓練が、工学部1号館前広場で実施された。

今回、訓練メニューが設営された会場では、「起震車」による震度体験コーナーが、もっとも多くの参加者を集

めた。「起震車」は、震度2から震度7までの地震の揺れをシミュレーションできる。参加者たちは、「起震車」による震度体験をしたことで、震災時における防災活動の重要性を肌で感じていた。



「起震車」による震度体験

また、「煙体験ハウス」による煙体験コーナーも、多くの参加者たちの関心を集めた。「煙体験ハウス」では、実際に煙が焚かれたテントの中を、煙を吸い込まないように、なるべく姿勢を低くして移動しなければならない。ハンカチやタオルで鼻と口を押さえて、ようやく手探りで通り抜けた参加者たちは、皆、火災時の行動の困難さを実感していた。

ほかにも、「小型ポンプ」による放水訓練、「消火器」による初期消火訓練、「簡易救助器具」を使用した救出救護訓練、「チェーンソー」の操作訓練、「心肺蘇生法」による応急救護訓練などの訓練を体験した。500名余りの参加者たちは、消防署員の指導のもと、終始、積極的に取り組んでいた。



「煙体験ハウス」による煙体験

なお、本訓練は、本郷消防署が計画した「地域防災貢献活動に備える訓練」のひとつであり、本郷地域の防災貢献活動に備える基礎技能を習得することを目的として

いる。7月11日（火）の普通救命講習、7月27日（木）及び28日（金）の地域貢献防災教室のすべてを修了すると、本郷消防署長から「地域防災貢献技能証」が交付される。



「小型ポンプ」による放水訓練



平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1341	7月19日（水）	7月26日（水）	8月1日（火）
1342	9月6日（水）	9月13日（水）	9月20日（水）
1343	9月20日（水）	9月27日（水）	10月3日（火）
1344	10月4日（水）	10月11日（水）	10月18日（水）
1345	10月18日（水）	10月25日（水）	10月31日（火）
1346	10月31日（火）	11月8日（水）	11月14日（火）
1347	11月15日（水）	11月22日（水）	11月29日（水）
1348	学生生活実態調査特集号（予定）		
1349	12月6日（水）	12月13日（水）	12月19日（火）
1350	1月10日（水）	1月17日（水）	1月23日（火）
1351	1月24日（水）	1月31日（水）	2月6日（火）
1352	2月7日（水）	2月14日（水）	2月21日（水）
1353	2月21日（水）	2月28日（水）	3月6日（火）
1354	3月7日（水）	3月14日（水）	3月20日（火）

学生部

**平成18年度調理担当者研修会
開催される**

一般

学生部では、6月21日（水）から6月23日（金）の3日間、本郷キャンパス及び検見川セミナーハウスにおいて、本年度の「調理担当者研修会」を開催した。これは学寮、保健体育寮（スポーティア）、戸田橋艇庫の各管理人及び検見川セミナーハウスの調理従事者が一同に会し、これから迎える夏季に備え調理・配膳業務に関する知識・技術を高めるとともに、衛生面の注意に向けた意識を高揚し、併せて各施設の関係者の情報交換の機会を提供することで、サービスの向上に資すことを目指して実施されたものである。

研修1日目は、学生相談所の倉光修教授から、学生たちに食事を提供する上で、心理面で気遣うべき点について興味深い講義が行なわれ、参加者は学生への心のケアの必要性について認識を新たにした。



講義風景

2日目は、栗本孝子生活支援課厚生チーム職員（栄養士）が衛生管理面や栄養管理面に関する講義を行なった上で、和気あいあいとした雰囲気の中、調理実習として夏季にふさわしい献立について指導した。



調理実習風景



調理実習成果品

3日目は、特に保健体育寮の担当者を対象に、利用者へのサービスの向上の観点から、各施設における問題点とその対策等について意見交換を行ない、研修の全日程を終了した。

この夏、皆様も、各保健体育寮や検見川総合運動場をご利用いただき、研修の成果を体感してみたいでしょうか。

各保健体育寮・検見川総合運動場については、東京大学運動会HP (<http://www.undou-kai.com/>) をご参照いただくか、下記問合せ先にご連絡下さい。

問合せ先：学生部学生課体育チーム 03-5841-2510

国際連携本部

「アジアの食文化とグローバリゼーション」談話会の開催

一般

学内教員が所属・専門分野を問わず参加できる談話会「アジアの食文化とグローバリゼーション」が、AGS（人間地球圏の存続を求める大学間国際学术交流）とASNET（日本・アジアに関する教育研究ネットワーク）の共催で立ち上げられた。その第1回会合が6月22日（木）に山上会館において開かれ、全学から教員、学生合わせて22名が出席した。浅尾修一郎特任教授（サステイナビリティ学連携研究機構）の司会によって会が進められ、AGS推進室長の住明正教授（気候システム研究センター）とASNET推進室長の羽田正教授（東洋文化研究所）による趣旨説明、出席者の自己紹介、今後の活動に関する意見交換が行われた。



AGS住明正教授（左）とASNET羽田正教授（右）

「食」は、食糧危機問題に象徴されるように地球規模のサステイナビリティのキーワードであると同時に、すべての人にとって身近な話題でもある。また「食文化」は、多様な気候や風土に彩られたアジア各地で土地ごとに発達してきたが、進行するグローバリゼーションの中で大きく変容してきている。アジアの食文化の現状や未来について自由に議論しながら、現代世界が抱える問題を理解し、その解決方法を考えるのが本談話会の第一の目的である。食物生産と人口・環境、農場経営、流通、調理法、料理の種類、料理店の経営、栄養、食の歴史、食の安全、食の思想をはじめ、関連するテーマは何でも取り上げられる予定である。



和やかな自己紹介時の様子

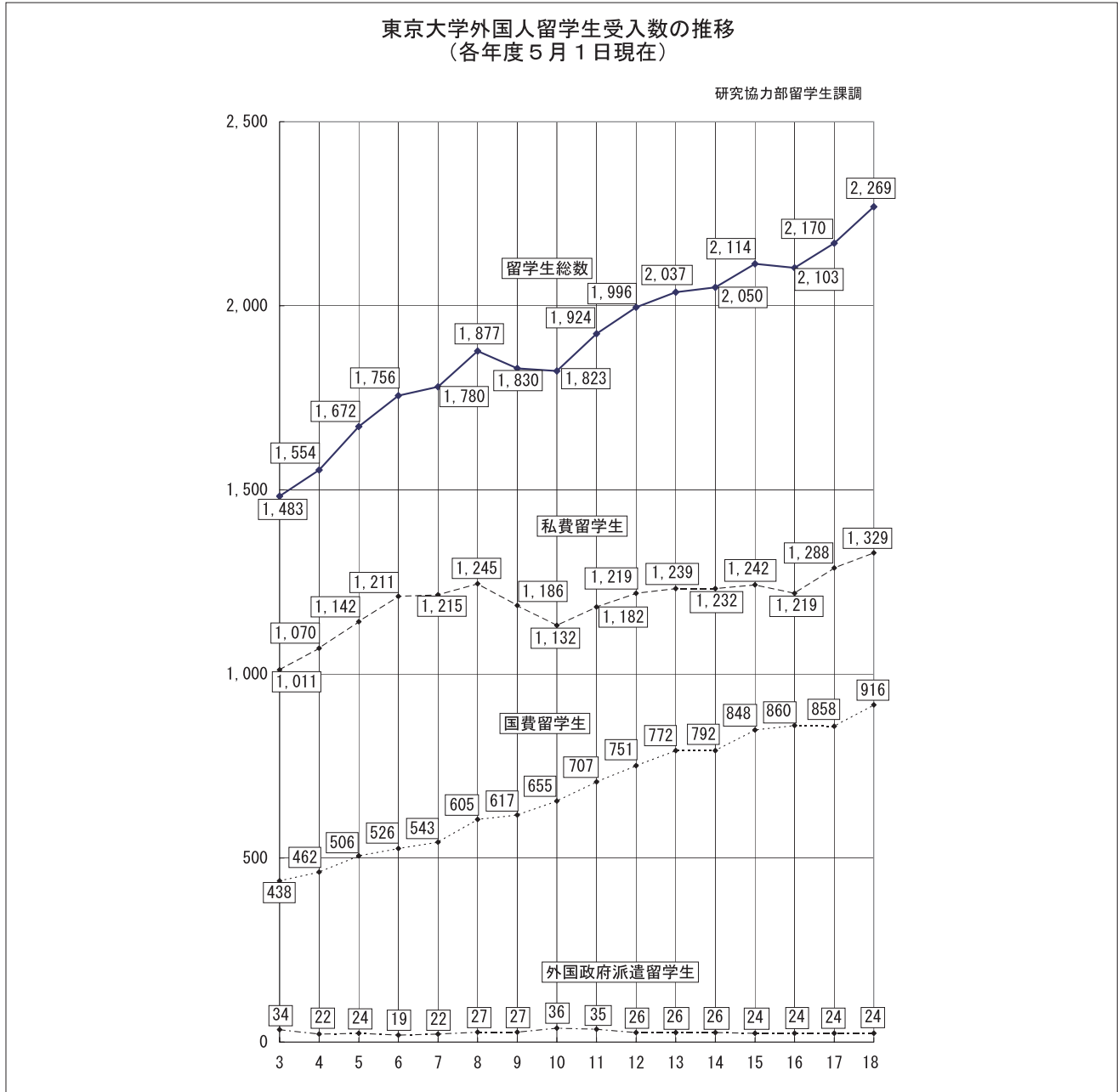
本談話会の特徴は、様々な関心を持つ研究者が集める分野横断的なテーマ設定にある。実際の会合にも多くの部局から出席者があった。会合を通して異分野の研究者同士で交流を持ち、そこから研究教育上の新しい連携が生まれることが談話会のもう1つの目的である。第2回会合は9月を予定している。興味がある方はASNET推進室 (asnet@asnet.dir.u-tokyo.ac.jp) までご連絡いただきたい。



研究協力部

平成18年度外国人学生数—国費外国人留学生数916人、私費外国人留学生数1,329人
外国政府派遣留学生数24人、在日外国人学生数164人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度5月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年5月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。



全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生数 (人)	C/A 比 率	平成17年度 比 率
学部レベル	14,601	14,234	272	1.86%	1.84%
大学院レベル	14,354	12,288	1,997	13.91%	13.73%
計	28,955	26,522	2,269	7.84%	7.56%

※全学生数欄には在日外国人学生を含む。
※研究所に所属する外国人研究生は、大学院レベルに含む。
※比率欄の数は四捨五入。

平成18年度 外国人学生数

平成18年5月1日現在

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所		合 計	
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 所 研 究 生		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国 費(a)	71	50	0	0	149	79	257	133	114	63	0	0	0	0	591	325
	121		0		228		390		177		0		0		916	
外国政府派遣	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	4		0		0		0		0		0		0		4	
外国政府派遣	5	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	6	4
	7		0		0		3		0		0		0		10	
外国政府派遣	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1		0		0		0		0		0		0		1	
外国政府派遣	5	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1
	6		0		3		0		0		0		0		9	
計(b)	14	4	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	18	6
	18		0		3		3		0		0		0		24	
私 費(c)	42	41	19	11	200	151	350	261	83	84	3	5	7	0	704	553
	83		30		351		611		167		8		7		1,257	
小 計(d)((a)+(b)+(c)) (在留資格「留学」の者)	127	95	19	11	352	230	608	396	197	147	3	5	7	0	1,313	884
	222		30		582		1,004		344		8		7		2,197	
私 費(e) (在留資格「留学」以外の者)	18	2	0	0	7	6	11	11	2	13	0	0	2	0	40	32
	20		0		13		22		15		0		2		72	
外国人留学生合計(f) ((d)+(e))	145	97	19	11	359	236	619	407	199	160	3	5	9	0	1,353	916
	242		30		595		1,026		359		8		9		2,269	
在日外国人学生(g)	79	16	0	0	32	11	19	7	0	0	0	0	0	0	130	34
	95		0		43		26		0		0		0		164	
外国人学生 総計 (f+g)	224	113	19	11	391	247	638	414	199	160	3	5	9	0	1,483	950
	337		30		638		1,052		359		8		9		2,433	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成18年5月1日現在

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所		小 計		合 計
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 所 研 究 生		小 計		
	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	
学 部	法学部	7	5												7	5	12
	医学部																
	工学部	27	29		7										27	36	63
	文学部	7	3												7	3	10
	理学部	4	6												4	6	10
	農学部	3	2		1										3	3	6
	経済学部	5	10												5	10	15
	教養学部	66	65		22										66	87	153
	教育学部	1													1		1
	薬学部	1	1												1	1	2
小計	121	121		30										121	151	272	
大 学 院	人文社会系研究科					8	24	14	60	26	34		2		48	120	168
	教育学研究科					2	15	8	22	4	10		1		14	48	62
	法学政治学研究科					9	15	11	16	8	11				28	42	70
	経済学研究科					4	7	1	12	3	2				8	21	29
	総合文化研究科					21	28	33	93	26	20		2		80	143	223
	理学系研究科					7	5	12	15	6	4				25	24	49
	工学系研究科					93	136	163	193	38	49		2		294	380	674
	農学生命科学研究科					8	26	53	66	17	6				78	98	176
	医学系研究科					5	22	29	84	10	15				44	121	165
	薬学系研究科					4	3	2	4	1	2				7	9	16
	数理学研究科					3	2	9	3	1					13	5	18
	新領域創成科学研究科					26	43	24	31	12	5		1		62	80	142
	情報理工学系研究科					27	20	24	28	17	9				68	57	125
	学際情報学府					5	12	7	9	8	15				20	36	56
	公共政策学教育部					6	9								6	9	15
小計					228	367	390	636	177	182		8		795	1,193	1,988	
研 究 所	医科学研究所																
	地震研究所																
	生産技術研究所												9		9		9
	分子細胞生物学研究所																
	物性研究所																
	海洋研究所																
	先端科学技術研究センター																
小計												9		9		9	
合計	121	121		30	228	367	390	636	177	182		8	9	916	1,353	2,269	

(注)①外国政府派遣留学生は、私費の欄に含む。

(注)②法学政治学研究科専門職学位課程学生2名及び公共政策学教育部専門職学位課程学生15名は、修士の欄に含む。

国又は地域別外国人留学生数

平成18年5月1日現在

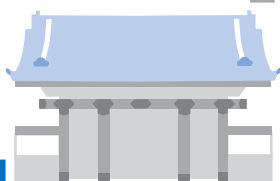
国名又は地域名	国 費				私 費				合 計				
	学部		大学院等		学部		大学院等		学部		大学院等		総計
	学生	研究生等	修士	博士	研究生等	修士	博士	修士	博士	学生	研究生等		
ケニア					1								1
タンザニア	1												1
コンゴ民主共和国						1							1
ナイジェリア							1						1
モロッコ													1
エチオピア				1									1
ウガンダ							1						1
モザンビーク													1
小計	1		3	5	4	13	2	6	1	9	5	11	22
オセアニア													
オーストラリア	5		4	3	3	15					4	3	15
ニュージーランド			1	1	1	3		2			1	3	6
小計	5		5	4	4	18	1	2		3	5	6	21
北米													
カナダ			1	3	3	7		2	1	2		4	14
アメリカ合衆国			6	7	10	23		5	6	7		13	46
小計			7	10	13	30		7	7	9		17	60
中南米													
メキシコ			1	5	2	8			1			6	9
エルサルバドル					1	1							1
コスタリカ			1			1							1
ブラジル	4		7	5	12	28		2	1		9	6	31
パラグアイ	2					2			1			1	3
ウルグアイ									1			1	1
アルゼンチン			1	2		3					1	2	3
チリ			1	3	1	5			1		1	3	6
ボリビア				1		1						1	1
ペルー			2	2		4				2	2	2	4
コロンビア			1	1		2		1		2	1	1	3
パネズエラ			2			2				2			2
トリニダード・トバゴ					1	1							1
ドミニカ					1	1						1	1
ハイチ					1	1						1	1
小計	6		16	20	18	60	1	3	4	8	6	19	68
ヨーロッパ													
フィンランド	1		1			2				1		1	3
スウェーデン				1	1	2		1	1	8	1	2	13

国又は地域別外国人留学生数

平成18年5月1日現在

国名又は地域名	国 費				私 費				合 計										
	学部		大学院等		学部		大学院等		学部		大学院等								
	学生	研究生等	修士	博士	研究生等	修士	博士	研究生等	学生	研究生等	修士	博士							
ノルウェー			1										2			2			3
デンマーク				1															4
イギリス			1																10
ベルギー																			2
ルクセンブルグ				1															1
オランダ				2															7
ドイツ				8															24
フランス			11	7															36
スペイン			2	1															8
ポルトガル			2	1															4
イタリア			1	1															8
ギリシャ				1															2
オーストリア				3															5
スイス				3															9
ポーランド			2	1															4
チェコ				3															4
ハンガリー	3		1																8
セルビア・モンテネグロ			1																2
ルーマニア	3		3																12
ブルガリア	5		1	2															11
アルバニア				1															1
ロシア	2			6															21
エストニア			1																2
リトニア				1															1
スロバキア			1																2
ウクライナ				1															1
ウズベキスタン																			1
カザフスタン	3																		4
ベラルーシ			1	1															2
クロアチア				1															1
スロベニア				1															2
マケドニア				1															1
ボスニア・ヘルツェゴビナ				1															1
タジキスタン			1	1															3
小計	17		31	52	49														223
合計	121		228	390	177														2,269

部局 ニュース



大学院薬学系研究科・薬学部

総合研究棟竣工記念式典を開催

部局



式辞を述べる柴崎正勝薬学系研究科長

薬学系研究科・薬学部は、6月5日（月）16:00から、総合研究棟2階講堂で総合研究棟竣工記念式典を挙げた。この式典は、国費による第1期7,500㎡と寄付金による第2期4,000㎡の建設が完了し、その竣工披露を行う運びとなったことによるもので、建設に尽力いただいた文部科学省および寄付企業・工事関係企業の方々にご臨席を仰ぎ、小宮山総長をはじめ、学内の理事・部局長など150余名が出席し、完成を祝った。



感謝状を受けられるアステラス製薬株式会社
代表取締役社長 竹中登一氏

式典は、柴崎薬学系研究科長式辞の後、小宮山宏総長挨拶、来賓挨拶として文部科学省大臣官房文教施設部長大島寛氏（文教施設部計画課長金谷史明氏代読）、徳島

文理大学長桐野豊氏（元東京大学副学長、元薬学系研究科長）より祝辞をいただいた。また、工事計画概要が長坂施設部長から報告された。その後、柴崎薬学系研究科長から、次の寄付企業と工事関係企業の方々へ感謝状が贈呈された。

【寄付企業】

塩野義製薬株式会社
エーザイ株式会社
三共株式会社
アステラス製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
第一製薬株式会社
株式会社コーセー

【工事関係企業】

株式会社久米設計（建物設計）
イーディーエル・エンジニアリング株式会社
（設備設計）
株式会社松村組（建築工事）
池田建設株式会社（建築工事）
川北電気株式会社（電気設備工事）
斎久工業株式会社（機械設備工事）
日本装芸株式会社（機械設備工事）
ダイコー株式会社（エレベーター工事）

式典終了後、会場を10階大会議室に移し、祝賀会を開催した。終始和やかな雰囲気にもまれて、19:00過ぎに散会した。



祝賀会で乾杯のご発声をされる岡村定矩副学長

大学総合教育研究センター

部局

大学総合教育研究センター設立10周年及びMEET設立記念シンポジウム開催

6月14日（水）弥生講堂一条ホールにて、大学総合教育研究センター設立10周年と、マイクロソフト寄附研究部門（MEET：Microsoft Chair of Educational Environment and Technology）開設を記念して、「大学教育の情報化—そのフロントライン」というテーマのもと、シンポジウムを実施した。

学内外よりこの分野に関心をもたれる183名（関係者を除く）の方々が参加され、講演者の刺激的なご発表のほか、ロビーにてメーカによるTablet PCのデモ展示や、シンポジウム終了後には懇親会も行われ、賑やかで実りあるシンポジウムとなった。



展示ロビーにて実際に
Tablet PCを使用する参加者

当日は、古田元夫理事・副学長、並びに、大井川和彦マイクロソフト株式会社・執行役公共インダストリー統括本部長のご挨拶より始まり、大井川執行役からは、マイクロソフトの教育分野における世界規模の取り組みについてご説明いただいた上で、今回の寄附に込められた高等教育の改善への期待が語られた。

古田理事・副学長からは今回の寄附に関する感謝とともに、東京大学全体の教育の改善を目指すTREEプロジェクトの中でMEETの果たす役割と意義が述べられた。講演ではまず、メディア教育開発センター吉田文教授から日本の高等教育のIT化の現状と課題について、同センターの調査結果を基にご講演をいただき、引き続きビジネス・ブレイクスルー大学院大学の伊藤泰史取締役からは、eラーニングベースの大学院における映像を使った実践の詳細についてお話をいただいた。

後半の講演では、ワシントン大学のアンダーソン教授と共に本学の学生4名が参加して、ソフトウェア「Classroom Presenter」を使ったデモンストレーション授業をしていただき、次に、本学情報理工学系研究科の五十嵐健夫助教授と博士課程の栗原一貴さんからTablet PCを使ったさまざまなソフトウェアのデモンストレーションをしていただいた。



アンダーソン教授と4名の学生が参加した
デモンストレーション授業の様子

このシンポジウムの詳細は「大総センターものぐらふ6」として出版するほか、講演内容の要旨に関しても近日中に<http://www.utmeet.jp/>にて公開します。ぜひご一読ください。

工学系等安全衛生管理室

部局

工学系等地震訓練が行われる

6月19日（月）昼休みに、工学系等（工学系研究科、情報理工学系研究科、工学部、VDEC、IML）において地震訓練が実施された。今回の訓練は全員参加であり、教職員、学生など約1800人が参加した。この地震訓練は、平成11年度から毎年度おこなわれており、今回で8回目の実施となる。訓練では、地震発生時の対応マニュアルにしたがった初期対応→緊急対応→避難という地震発生時の行動が、号館対策部（各建物の対策本部）と工学系等対策本部の間で連絡を取りながら進められた。突発地震発生時の対応行動を実地で訓練するとともに、通報連絡設備・機器の確認や要改善事項の検討がおこなわれた。



工学系等対策本部の訓練時の様子（列品館）

- 初期対応：身の安全を図る、火の始末、避難路の確保
- 緊急対応（訓練では火災やけが人などを想定）：
火災・有害物質漏えい対応、負傷者救助、状況を号館災害対策部に連絡
- 避難、安否確認：号館対策部主導で避難場所に避難をおこない、安否確認を実施する

11:45に全号館への「訓練地震発生！」の斉放送により訓練は始まった。各号館に対策部が設置されると本部との緊急用内線PHS連絡網を用いた連絡が開始され、本部に用意された5台のPHSにはひっきりなしに連絡が入った。連絡内容を本部の記録係がボードに記入することで、全体の状況を本部で把握しながら地震対応行動が進行した。開始から40分ほどで全ての号館の避難、安否確認が完了し訓練が終了した。最後に本部から、本部長代理の中尾安全衛生管理室長、地震対策専門委員の塩原助教授（建築）、避難行動の専門家関沢教授（都市工）、本郷消防署の関予防課長の講評が斉放送で参加者に伝えられた。



避難・安否確認訓練中の参加者（弥生門付近）



情報を本部のボードに記入しているところ

なお、関連行事として本郷消防署による体験型防災訓練が同日12:00～14:00に工学部1号館前広場で実施され、多くの地震訓練参加者が引き続き参加した。

人文社会系研究科・文学部

外国人留学生等との懇親会開かれる

6月21日（水）午後6時から、山上会館地下食堂において、人文社会系研究科・文学部主催の外国人留学生・研究員及び外国人スタッフとの懇親会が開催された。

懇親会には、大学院人文社会系研究科及び文学部に在籍する14カ国の外国人留学生・研究員、留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方および教職員計110名が参加。まず高橋研究科長の挨拶があり、続いて服部国際交流委員会委員長の発声で乾杯したのち、懇談が始まった。



懇親会には14カ国の外国人留学生・研究員が参加した

懇談は終始和やかな雰囲気の中盛会に行われ、途中

に「三金会」の先生を代表して、石平快三氏から会の名称の由来や活動状況等を踏まえた留学生とのエピソードを中心に心温まるご挨拶があり、続いて台湾からの留学生、中国からの留学生それぞれのグループによる歌の披露に参加者から大歓声が沸き上がった。

最後に留学生を代表して、韓国の李洋陽（博士課程3年）さんから、『日頃は寸暇を惜しんで学術研究に打ち込んでいる留学生達にとって、この企画は同郷の友人との久しぶりの再会や、専門分野を越えた教員スタッフとの会話の場を提供してくれる真の懇談の場であり、新たな気力を充実させてくれる場である。こうした懇談の場を今後も提供していただけると嬉しい』との謝辞があり、会は午後8時に盛況のうちに終了した。

新領域創成科学研究科



新領域創成科学研究科の柏キャンパス移転が完了！

「柏キャンパスにおける大学院新研究科構想(1994)」に基づき、1998年に新領域創成科学研究科が設置されたが、当初は柏キャンパスに研究棟がなく、2001年から2006年3月にかけて研究棟が建築され、ようやく研究科全体が柏キャンパスに集結することが出来た。

これを記念して、7月4日（火）に新領域創成科学研究科・移転完了記念式典および祝賀会が開催された。

式典に先立って、最新の磁気圏型プラズマ実験装置と極超音速熱風洞の見学会を行った。



磁気圏型プラズマ実験装置の説明を聞く

移転完了記念式典への参加者は、柏市長や地元の関係機関の方々など学外より30名、本学他部局より70名、そして研究科から80名の教職員、計180名で、会場の環境学研究棟FSホールは満席状態となった。

磯部雅彦研究科長の式辞では、研究科の歴史と現況が紹介され、ここに至るまで支えて下さった学内外の多くの方に感謝したいこと、「学融合」という目標が新領域

創成科学研究科という名に込められていること、学生にとって魅力あるキャンパスをつくり、地域とともに発展を模索したいこと、等の決意が述べられた。

小宮山宏総長のご挨拶では、柏キャンパスは今後の更なる整備によって、「知の冒険」にふさわしい素晴らしい環境を実現できるであろうとの期待が寄せられた。一方、交通の便や施設面で不自由であることも指摘され、学寮などの厚生施設、柏キャンパスのシンボルとなる建築物等の整備を通じ、三極構造を名実ともに実現させるために、今後とも整備・完成への努力を継続したいとの言葉を頂戴した。



小宮山総長による挨拶

上田和夫柏キャンパス共同学術経営委員長は、柏キャンパスの7部局が連携を取りながら、ますます発展されることを祈念したい、と述べられた。

本多晃柏市長は、市民に開かれ地元との協力関係が花開く柏キャンパスを中心に、環境と利便性を両立させた国際キャンパス都市の整備に取り組みたいと述べられた。

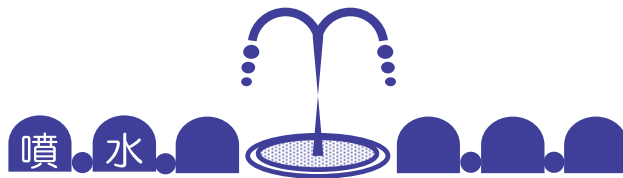
続いて、新領域創成科学研究科の活動が紹介された。表題のみを記すと、飛原英治教授「研究科の歩みと将来計画」、大野秀敏教授「環境棟の建築について」、吉田善章教授・長島利夫教授「実験棟大型設備の整備と今後の展開～磁気圏型プラズマ実験装置と極超音速熱風洞～」である。最後に大矢禎一副研究科長による閉会挨拶で、式典は閉じられた。

つづいて、柏キャンパスカフェテリアにて祝賀会が行われた。学内外の招待者95名と研究科教員70名とで、会場には熱気が充満した。

祝賀会は、鳥海光弘副研究科長の開会挨拶、西尾茂文理事・副学長による祝辞ののち、似田貝香門名誉教授（初代研究科長）により乾杯となった。懇談のなかでは、井崎義治流山市長による歓迎挨拶など、多くのお客様より、暖かい言葉をいただいた。19時30分過ぎに中締めが行われ、散会となった。

今回の記念式典では、1階のFSホールから、各教室にライブ中継が行われ、東京大学内のどのコンピュータからも、式典の様子が見えるという設定を行った。

梅雨の真っ盛りの開催で、天候が心配されたが、何とか持ちこたえ、意義ある式典を終えることができた。ご出席頂いた方々に、またお世話頂いた方々に、大いなる感謝の意を表し、ご報告としたい。



初心者水泳講習会を終えて

例年、東大水泳同好会では初心者水泳講習会を指導させて頂いています（学内広報1336号参照）。今年度も学生部学生課体育チームからの依頼で、6月9日（金）に説明会を行った後、全く泳げない初心者からクロールの息継ぎが出来ない初級者を対象に、6月13日（火）、14日（水）、16日（金）、20日（火）、21日（水）、23日（金）の18:00～19:30に御殿下記念館プールで講習会を実施いたしました。

参加人数は定員20名のところ募集定員をオーバーして25名程になってしまいました。東大水泳同好会の先輩より私が指導を引き継いだ10年ほど前の参加者状況は、40～50歳代と思われる女性が多数を占めていましたが、ここ数年は外国人留学生の20～30歳代男女が殆どです。今回も、水に入ることすら出来なかった方が、クロールで10～25m程泳げるようになった時は、指導者としても喜びの一瞬で、留学ついでに水泳も覚えられたよと帰国後に報告して頂けるのではと思っています。毎年指導をしていて感ずることは、逆に教わることが多いなということも事実です。



今年度も東大水泳同好会の小林さん、高橋さん、関谷さん他に指導を頂き、学生部学生課体育チームの方や御殿下記念館プールの方にも助けられ、無事に初心者水泳講習会を修了出来ましたことをお礼申し上げます。有り難う御座いました。

（東大水泳同好会 藪田正）



～広報センターより～



修学旅行の女の子たち

「龍岡門横丁噺」と題しまして、本郷キャンパス龍岡門横にある広報センターからおはなしを始めることになりました。

お客様とのふれあいや構内豆知識などをお伝えできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

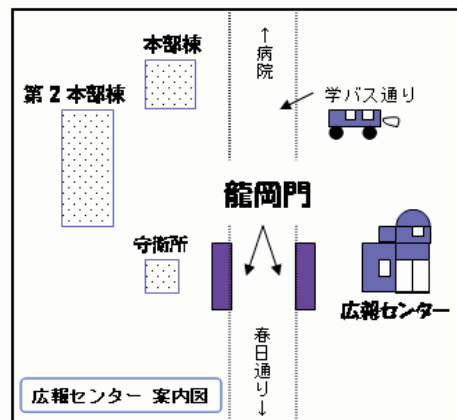
さて、受験生や学校見学など多くの方にご利用いただいている当センターですが、最近、「東大を楽しもう！」とする人のご来館が増えています。建物、銅像、樹木、そしてグッズやレストランなど、お好みは実に様々で、それぞれのご興味をうかがうのも楽しみです。

来館者数は集計していますが、その数字は出会いの数でもあります。走馬灯のようにとはいきませんが、思い出に残るエピソードはたくさんあります……。

あれは夏の暑い日。修学旅行で訪れた生徒さんは、女子中学生5人のグループでした。構内を散策し、広報センターに辿り着いたときには、流行の服は汗でビショリになっていました。そして、涼しい館内でワイワイと資料を集めてから、楽しそうにまた次の見学場所へと向かって行ったのです。先生は彼女たちの背中を心配そうに見送りながら、私におっしゃいました。

「あの子らにとって、最初で最後の東京になるかもしれません。この日のために思いっきりオシャレをして来たのですよ」。

可愛い彼女たちには東京大学はどのように映ったのでしょうか？大切な思い出の1ページであれば嬉しいと願いながら、来館された皆さんとの出会いを大切にしよう！とあらためて心に刻みました。（いい思い出づくりに協力したいなあ。）
～次回へつづく～ かもしれない!?



■コミュニケーションセンターで2種類の
アミノ酸サプリメントを7月1日より新発売!

東京大学とアミノ酸の関係は、池田菊苗先生による「うまみ成分」の発見までさかのぼることができますが、近年、アミノ酸摂取によるカラダへの影響についての研究も行われ、さまざまな成果をあげています。

その成果の一つとして競走馬の実験が上げられます。96年、アミノ酸で繁殖・育成・調教し、アミノスタローンと名づけられた馬が東京シティ競馬で6勝しています。血統が全てといわれている競走馬の世界で、非エリートの「東大出の馬」が勝つことはとても珍しいことです。その後スポーツ選手への栄養補助食品としての研究がさらに進み2000年シドニーオリンピックのころからスポーツ選手もアミノ酸の摂取を積極的に行うようになっていきます。

東大の研究をベースにした
アミノ酸サプリメントを販売開始

A) 東大サプリメント「体力式アミノ酸」
体力・筋力増加を望む方に。
健康維持のために。
体内でつくることの出来ない9種類の
必須アミノ酸をバランスよく配合。



カラダの基本となる筋肉に大切な分岐鎖アミノ酸 (BCAA) 等と健康維持のために欠かすことができないグルタミン、アルギニンとをバランスよく配合した顆粒タイプのサプリメント。

アミノ酸3000mg配合。
アセロラ風味

14パッケージ入 2,205円(税込)



B) 東大サプリメント「乾杯式アミノ酸」
お酒を飲む方に。
二日酔いに苦しまないために。
お酒を飲む方に最適な2種類のアミノ酸を配合。

日常生活において夜のお付き合いが多く御酒を召し上がる方、健康を気づかう方に大切なアミノ酸 (アラニン・グルタミン) をバランスよく配合した顆粒タイプのサプリメント。

アミノ酸2500mg配合。
プラム風味

14パッケージ入り 1,554円(税込)

朝日新聞に記事が掲載された影響でしょうか、一日に300個近く売れるなど反響を得ています。

学外からも多くのお問い合わせがあり、東京大学の研究成果を商品化したものに関心を持って頂ける事を嬉しく思っています。

(担当:コミュニケーションセンター 辻)



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

調達本部です



第12回 屋内清掃

屋内清掃(以下「清掃」)は、調達改善のひとつの「メダマ」と考えられていました。調達本部が実績調査を行う前から、「東大の清掃費は約30億円、88もの業者が契約している。たった1割の節減でも3億円。」といった情報流れ、期待が膨らんでいたからです。しかし、これは真っ赤なウソ情報でした。

実際に調べてみると、清掃費は約6億7千万円、業者数は(延べ)41社ということでした。それでも、これは調達本部の掲げる「契約の集約・新規業者の参入」の効果を試すよいターゲットに違いはないと思われました。基本的には「3キャンパス」毎にそれぞれ一契約に集約する方針で進めることとしました。

各部局から入手した前回契約内容を下敷きに、集約することによって問題が発生しないか慎重に仕様の策定を行いました。その結果、2つの附属病院だけは、患者さんの存在など特殊な領域として別個の契約とする必要があるが、それ以外の部局については、3キャンパスそれぞれに一契約で括ることが可能と判断しました。

年度が変わる4月に向けての入札実施ということになるのですが、担当する業者さんにとってもかってない規模の作業を請け負うこととなりますので、現場の精査など一定の期間を特別に確保する必要があります。そのため業者の決定が1月には終え、2、3月を準備に当ててもらえるように、例年より前倒ししたスケジュールを組むこととしました。

(単位:百万円)

屋内清掃	17年度	18年度	節減額(率)	
本郷キャンパス内	191	134	△57	(30%)
駒場キャンパス内	80	63	△17	(21%)
柏キャンパス内	17	12	△5	(32%)
医学部附属病院	328	321	△7	(2%)
医科研附属病院	55	53	△2	(3%)
計	671	583	△88	(13%)

18年度の屋内清掃契約の結果は別表のとおりで、キャンパス単位で契約規模を集約した部分については、20~30%の削減となりました。また、この清掃の入札に参加した業者の数はトータル31社で、新規の参加が7業者含まれています。(国際入札でしたが、今回も海外からの参加はゼロでした。)

17年度契約を起点とすると、今後は毎年9千万円の予算を屋内清掃から他の目的、例えば新規の研究事業に振り向けることが可能となったこととなります。調達本部では、仕様の見直しによるさらなる削減余地がないか、検討を進めるつもりです。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

空手部

空手部は毎週月・水・金曜日の18時から駒場第一体育館剣道場にて、火・木曜日の18時・土曜日の13時から七徳堂にて練習しています。

先日御殿下記念館で行われた東京都国公立大会では男子団体形・組手優勝、男子個人形1位2位という成績を収め完全制覇を成し遂げました。現在は7月中旬に大阪にて行われる全国七大学大会の2連覇を目指し暑さにも負けず練習に打ち込んでいます。

空手部の良いところは、厳しい練習の中で切磋琢磨することで得られる体と心の成長は勿論のこと、運動会で武道系といういかめしいイメージとは違い、70歳を過ぎたOBの先輩から現役の部員までが分け隔てなく接するなど、創部以来部の雰囲気がとても和やかであることだと思います。

また、今年からは武道系の講習会を実施して欲しいとの要望に応え、6月3日に第1回空手講習会を開催しました。空手講習会には多くの方に参加していただき、好評を得ることができました。来年度以降も実施していく予定ですぜひ参加していただきたいと思います。

練習の見学や参加も歓迎しておりますので、興味を持たれた方は一度覗いてみて下さい。

(空手部 力丸 雄太)



★★DATA★★

創立：昭和元（1925）年
 部員数：50名
 練習場所・練習日：
 月・水・金 18:00～ 駒場地区第一体育館剣道場
 火・木 18:00～ 土 13:00～ 本郷地区七徳堂
 年間予定：4月 六大学戦
 5月 東京都国公立大会
 6月 東日本大会
 7月 七大戦
 10月 関東学連
 11月 全国国公立大会
 3月 和道全国大会
 活動実績：東京都国公立大会優勝
 七大戦優勝
 部長：高瀬雄一（大学院新領域創成科学研究科教授）
 監督：後藤史憲
 HP：<http://www.toudai-karate.com/>

相撲部

我々相撲部は昨年創立30周年を迎えました。駒場のキャンパスの隅っこに足で円を描いて始めたという黎明期を経て、今ではラグビー場の隣の室内道場という恵まれた環境にて日々鍛錬に勤んでおります。

稽古は基本的に月水土の週3回。部員それぞれが自らのスケジュールや体力に合わせ、自分にあったスタイルで参加をしています。現在属する3部や国公立大会ではいわゆる相撲取り体型はほとんどおらず、体重別の大会もあるため、実力の比較的近い選手との対戦が主となります。高校までの経験者はごくごく少数のため、少し稽古に打ち込めば大会で上位に食い込むことが出来ます。

相撲は見て楽しいスポーツであると同時にやってみると楽しいスポーツでもあると断言できます。相撲はただの力と力の勝負ではありません。勝負は立ち合い。「はっけよい」の聲がかかった瞬間からのコンマ何秒の間に自分が実力を出せる体勢を作るかでは勝負が決まります。しかし、たとえ体勢を作れなかったとしても、諦めず相手の一瞬の気の緩みがつければ、土俵際での大逆転があります。これが相撲のもう一つの醍醐味です。相撲は正に心技体の充実を極みとする奥深いスポーツなのです。

我々はちょっとでも相撲に興味がある人を決して拒むことはありません。現在は主将のペトゥルがチェコからの留学生ということもあり、国際交流も盛んです。現在も上智大の女性(!)留学生が大会出場を目指し稽古に來ています。是非一度稽古場を覗きにいらしてください。

(相撲部 福田 夏樹)



★★DATA★★

創立：昭和50（1975）年
 部員数：15名
 練習場所：駒場地区格技場一階道場
 練習日：月・水 5限後（18:00～）
 土 15:00～
 年間予定：5月 新人戦、国公立大会
 6月 東日本大会
 7月 東日本体重別
 8月 合宿、七大戦
 9月 京大定期戦、東日本リーグ戦
 10月 全国体重別
 11月 全国学生相撲選手権
 12月 ちゃんこ会
 活動実績：ペトゥル・マトウシュ
 世界選手権軽量級出場、団体戦3位決定戦進出
 部長：新田一郎（大学院法学政治学研究科教授）
 監督：田畑広太郎（弁護士）
 HP：<http://www.dosukoi.net/~today/index.html>

未来の東大の土台造りを今 ～再び東京大学基金へのご協力のお願い～

東京大学教職員各位

理事・副学長 佐藤 慎一（基金担当）

本年3月8日に刊行された『学内広報』1331号に、当時基金担当をしていた西尾茂文理事が「変わらないもの、そして変えるもの 東京大学とともに」と題する文章を寄稿し、全学の教職員に対して東京大学基金への協力を訴えました。以来、少なからざる教職員から東大基金にご寄付を頂戴することができました。厚く御礼申し上げます。とはいえ、ご寄付頂いた方の数は、残念ながら私たちの期待した数に達していません。私たちの訴えの努力が足りないものと反省し、改めてご協力をお願いする次第です。

東京大学基金は、紛れもなく国立大学法人化の産物です。法人化により国立大学は、自らの意思と責任で大学財政を運営することのできる自主性を獲得する一方で、運営費交付金の通減という重い条件を課せられることになりました。新たに獲得した財政上の自主性を最大限に生かしつつ、運営費交付金通減の圧力をはねのけようという試みこそ、東大基金の出発点に他なりません。

東京大学も含め、世界各国の一流大学はいま、より高度な水準の研究と教育の実現を求めて熾烈な競争を展開しています。より高度な研究と教育を実現した大学にはより多くの人材と資金が集まり、さらに高度な研究と教育を実現するための条件が整うからです。こうした競争の中で、アメリカの主要大学が一步先んじていることは否定できない事実ですが、そのひとつの原因は彼らが膨大な大学基金を保有していることにあります。例えばハーバード大学は、昨年度3兆円の大学基金を運用して4千億円の利益をあげたとされますが、この運用益は東京大学の年間予算のほぼ倍に相当します。もしも東京大学にこれだけの資金があれば、学費を免除し奨学金を与えて世界の優秀な大学院学生を東京大学に集めることが可能になるでしょう。

学問は日々進化し発展します。もしも東京大学が22世紀においても世界の一流大学であることを欲するならば、私たち東京大学の人間は、学問の発展の将来を見通し、私たち自身の判断に基づいて、必要と思われる箇所に戦略的に資源を投資して行かなくてはなりません。運営費交付金が通減する中で、豊富な大学基金とその運用益こそが、未来のための投資を可能にします。東京大学基金は、未来の東京大学構想を支える財政的土台なのです。

東京大学基金は、東京大学創立130周年にちなんで、130億円を目標に出発しました。その目標はほぼ確実に達成されると思われませんが、小宮山総長はさらに一歩進んで、「自分の任期中に500億円の東京大学基金を」と呼号しています。決して容易ではない数値目標ですが、より多くの卒業生や企業に寄付を呼び掛けて目標を実現したいと考えております。より多くの卒業生や企業に寄付をお願いするためには、より多くの教職員のご寄付が不可欠です。東京大学基金に対するご協力を、改めてよろしくお願いいたします。



東京大学基金に対するご寄付は、
所得税の控除対象となっております。

＜お問い合わせ＞

東京大学基金事務局

TEL：03-5841-1217 FAX：03-5841-1219

E-mail：kikin@adm.u-tokyo.ac.jp

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

生産技術研究所

第1回「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」シンポジウム開催のお知らせ

文部科学省IT基盤構築のための研究開発「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクトは最新成果の報告と今後の展望を議論する場として第1回シンポジウムを開催致します。

第1日目は各界を代表する方々をお招きし、21世紀のシミュレーションに期待される役割について議論します。

第2日目は成果報告と今後の開発計画を紹介致します。最近のトピックスとして、たんぱく質と医薬品候補物質の相互作用解析がわずか1.6時間余りで実現できたこと、世界最大規模の6,000原子レベルのナノ特性計算が可能になったこと、さらにフォーミュラーカーの丸ごと空力特性解析を初めて実現したことなどがあり、最新状況を詳しく報告するとともに、本プロジェクトの全貌を紹介致します。

- 日時：7月27日（木）～28日（金）10:00～
- 会場：生産技術研究所 総合研究実験棟2階
コンベンションホール
- 参加費：無料 懇親会費：2,000円
- 申込方法：<http://www.rss21.iis.u-tokyo.ac.jp>
よりお申し込みください。

<プログラム> 7月27日

- ・来賓挨拶
生産技術研究所所長 前田正史
文部科学省

プログラムオフィサー

(財)日本自動車研究所所長 小林敏雄

- ・基調講演
動け！日本発21世紀のシミュレーション技術
東京大学総長 小宮山宏
- ・講演
革新的シミュレーションソフトウェアの開発
研究代表 加藤千幸
- ・招待講演
科学技術政策の動向と計算科学技術への期待
総合科学技術会議議員 柘植綾夫
生産の共通基盤となるシミュレーション技術
トヨタ自動車（株）執行役常務 天野吉和
最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの
開発利用プロジェクトの推進
文部科学省研究振興官 渡辺 貞
- ・パネルディスカッション
21世紀を切り拓くシミュレーション技術
司会 大阪工業大学教授 川田 裕
パネリスト 天野吉和、北村一泰、柘植綾夫、
姫野龍太郎、渡辺貞

<プログラム> 7月28日

- ・生命現象シミュレーション
生産技術研究所助教授 佐藤文俊
国立医薬品食品衛生研究所主任研究官 中野達也
生産技術研究所教授 大島まり
- ・ナノシミュレーション
(独)物質・材料研究機構計算科学センター長
大野隆央
生産技術研究所産学官連携研究員 濱田智之
アドバンスソフト（株）研究主席 宇田 毅
- ・都市の安全・環境シミュレーション
生産技術研究所教授 加藤信介
生産技術研究所産学官連携研究員 奈良昌則
- ・統合連成シミュレーション
大学院工学系研究科教授 吉村 忍
生産技術研究所教授 加藤千幸
人工物工学研究センター教授 奥田洋司
アドバンスソフト（株）主事研究員 松澤邦裕

●問合せ先

生産技術研究所計算科学技術連携研究センター事務局
Tel：03-5452-6661 Fax：03-5452-6662
E-mail：office@rss21.iis.u-tokyo.ac.jp

大学経営・政策研究センター公開シンポジウム 「現代日本の大学進学と政策」のご案内

大学経営・政策研究センターでは、7月29日（土）に下記のシンポジウムを開催します。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

趣旨

希望さえすれば誰もが進学できる——「大学全入時代」とはそうしたものかも知れません。しかし、高校生の進路選択は性別や家庭背景によって大きく異なっています。地域による進学機会の違いや、高騰する教育費はどのように進路選択を制約しているのでしょうか。そして奨学金などの公共政策には何が可能で、何が求められるのでしょうか。このシンポジウムでは、全国4,000人の高校3年生と保護者に対する調査をもとにこれらの問題を明らかにし、今後の政策課題を展望します。

日時：7月29日（土）

[受付] 9:00 [開会] 9:30 [終了] 17:30

会場：学術総合センタービル 2F 中会議室 1・2

※入場無料（定員100名）

- ・神保町駅A 8 出口から徒歩 3 分
- ・竹橋駅 I B 出口から徒歩 4 分

プログラム

基調講演

「なぜ大学に進学しないのか」
——高校生のための高等教育政策」
矢野眞和（東京大学 大学経営・政策研究センター長）

第1セッション

- ・報告①「『大学全入時代』における進路形成——進路選択の可能領域と決定の3段階モデル」
濱中義隆（大学評価・学位授与機構助教授）
- ・報告②「四大・短大・専修学校の選択における男女差と地域差」
林未央（日本学術振興会特別研究員）
- ・コメント 小杉礼子
（労働政策研究・研修機構副統括研究員）

第2セッション

- ・報告①「地域における大学進学行動と機会」
朴澤泰男（日本学術振興会特別研究員）
- ・報告②「高校生の進路選択と教育負担問題——奨学金政策の課題」
小林雅之（東京大学助教授）

- ・報告③「大学進学に及ぼす学力・所得・奨学金の効果——貸与奨学金は、所得格差を是正するか？」
藤村正司（新潟大学教授）
- ・コメント 近藤博之（大阪大学教授）

第3セッション

シンポジウム「現代日本の大学進学と政策」

金子元久（東京大学教授）＋参加者

申し込み方法：

参加を希望される方全員の①お名前（ふりがな）、②ご所属、③ご連絡先電話番号、④E-mailアドレスを明記の上、E-mail（またはFAX）でお申し込みください。

お問い合わせ：

大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター

Phone & Fax: 03-5841-3993

E-mail: daikei@p.u-tokyo.ac.jp

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/crump/

募集

お知らせ

学生部

東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の募集について

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」（以下「選考委員会」という。）が選考にあたり総長が表彰するものです。

選考委員会では、推薦された候補者の中からその内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

なお、本年度から年2回行われる授与のうち、**第1回（秋）は学業以外の課外活動等を対象**に募集します。また、第2回（春）には年間の授与者の中から特に優秀な者に対し、総長大賞が授与される予定です。



東京大学学生表彰「東京大学総長賞」推薦基準

東京大学学生表彰実施要綱（平成14年3月19日総長裁定、平成18年6月30日改正）第3に基づき、推薦の基準を以下のとおりとする。

1. 提出物：別紙様式1（個人）又は別紙様式2（団体）に必要事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
2. 推薦基準：以下のとおりです。
3. 提出期限：9月6日(水)午後4時まで(必着)
4. 選考結果：9月上旬に推薦者及び選考対象者へご連絡いたします。
5. 授与式：平成18年11月上旬に実施を予定しています。日程の詳細は決まり次第お知らせします。

◎詳細については、ホームページをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html



(提出先及びお問い合わせ先)
学生部学生課学生生活チーム（担当：大八木・宮内）
内線：22529／22514
e-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

- (1) 学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人若しくは団体又は学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体
- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、自薦又は他薦とする。

ただし、基準(1)の推薦者は、学部学生については学部長、大学院学生については研究科長・教育部の部長に限る。

なお、年2回の授与のうち、第1回目（秋）の推薦は上記基準の(2)～(5)を、第2回目（春）の推薦は基準の(1)をそれぞれ対象とする。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。

お知らせ

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

東京大学にご所属であればどなたでも参加できます。

●会場（全コース共通）：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
Training Course Corner (1st floor of the General Library, Hongo Campus)

●申込方法：

※8月は、事前予約制で実施します。下記のサイトで1週間前までにお申し込みください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

申込みページのメニューの中から、コース・日時を選択できます。（同一日時に異なるコースの申込みが集まった場合など、申込状況によってはご希望に沿えないこともあります。あらかじめご了承ください。）

※ In August, a reservation is required. Please apply by one week before at the following web page :

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/koshukai/index-e.html>

The course and the date can be selected from the menu on the application page. (However, depending on the circumstances, it may not be possible to meet your request.)

●コース概要：

<<テーマ別ガイダンス>>

1つのテーマについて、検索実習を交えながら解説します。以下の3コースがあります。

■ 図書館の蔵書を検索するには？ (60分)

リニューアルした“東京大学OPAC”（蔵書目録データベース）の使い方を中心に、図書館の蔵書を検索できるいろいろなデータベースを紹介します。

■ 電子ジャーナルを利用するには？ (60分)

電子ジャーナルにアクセスする方法や、代表的な出版社の電子ジャーナルサイトを例にとって実際の利用方法を解説します。

■ 自宅から検索するには？ (60分)

自宅や帰省先、海外からも利用できるデータベースなどを紹介します。通常は学内からのみ利用可能なデータベース・電子ジャーナルについても、手続きをして学外から利用できるサービスがあります。

<<データベースユーザトレーニング>>

特定のデータベースの使い方について、検索実習を交えながら解説します。以下の3コースがあります。

■ FELIX と CiNii (60分)

FELIX（フェリックス）は日本語論文（雑誌記事索引）、欧文の論文（SwetScan）、人文社会科学系の欧文の論文（PCI）を検索できる、目次情報検索システムです。CiNii（サイニイ）は国内の論文、学協会誌、大学の研究紀要を中心とした論文情報データベースで、一部のデータは本文にリンクしています。

■ JapanKnowledge (60分)

国内の百科事典・辞事典を中心に構築された、日本最大の知識データベースです。日本大百科全書、日本人名大辞典、imidias、現代用語の基礎知識、大辞泉、ランダムハウス英和大辞典などの一括統合検索や、東洋文庫、会社四季報、週刊エコノミストの全文閲覧などができます。

■ Web of Science (60分)

全分野の主要な学術雑誌（約8,800誌）に掲載された論文のデータベースです。通常のキーワードによる検索に加え、引用文献をキーにした検索も可能です。

<<Database User Training (English Session)>>

■ OPAC Course

Practice searching for and obtaining materials held at the University of Tokyo and other libraries using OPAC and Webcat.

■ Electronic Journals Course

- ・ This course covers the fundamental aspects involved when consulting electronic journals.
- ・ Explanations about the search functions of publishers such as ScienceDirect, SpringerLink and Wiley InterScience can be tailored to include examples in your specific field of research.

■ FELIX Course

- ・ This course provides an in-depth explanation of the FELIX Journal Contents Database.
- ・ Learn more about the particularities of the three databases incorporated in FELIX, and brush up your research skills with tips on how to use search keywords.

■ Web of Science Course

Apart from the usual keyword search functions, this journal article database allows to find:

- cited materials (articles cited by a particular article)

- citing materials (articles citing a particular article)
- related materials (other articles sharing a common reference with a particular article)

●問い合わせ 学術情報リテラシー係 (22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第495（7月5日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第495（7月5日）号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

山内昌之：四つの研究方向——紫綬褒章を受章して
小河正基：地球・金星・火星
林 知更：憲法について考える
村松真理子：レオナルド・イタリア・駒場
——イタリア語初修外国語化をめぐるって
ジョン・ボチャラリ：AIKOMへの誘い

〈本の棚〉

清水 剛：山脇直司・金泰昌編
『公共哲学18組織・経営から考える公共性』
組織の「回避不能な歪み」

〈時に沿って〉

鈴木 建：荘大な蘊蓄
坂山英俊：植物の進化を探る
月脚達彦：隣国と向き会う

お知らせ

総合研究博物館

『時空のデザイン』展のお知らせ

7月22日（土）から10月9日（月・祝）まで、東京大学総合研究博物館では特別展示『時空のデザイン』展を開催します。また新規収蔵展示『サンゴ礁の貝類—川口四郎博士コレクション』展、常設展示『「Systema naturae」—標本は語る—』展を開催します。

1905年ベルンの特許局の役人であったアインシュタインは、古典物理学に革命をもたらす数々の論文を発表した結果、1905年はニュートンを頂点とする古典物理学から現代物理学へのターニングポイントになりました。本展示は「近代物理学は相対性理論と量子論を2本の縦糸とすれば、非平衡統計力学によるカオスや揺らぎが横糸となって織りなされている」を基本コンセプトとし、数多くのアインシュタインの理論の中から1905年を代表する「相対性理論」・「光量子仮説」・「ブラウン運動」を取り上げて、現代の多くの先端科学技術の源流がアインシュタイン物理学にあることを示します。抽象的な理論物理学の世界をミュージアム・テクノロジーとの協働で東京大学総合研究博物館の実験展示の名に相応しい切り口で公開します。

『時空のデザイン』展

『サンゴ礁の貝類—川口四郎博士コレクション』展

『「Systema naturae」—標本は語る—』展

●会期 7月22日（土）～10月9日（月・祝）

●休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館、翌日閉館） 8月11日（金）～14日（月）、9月10日

●開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

●会場 総合研究博物館

●問合せ ハローダイヤル 03-5777-8600

URL <http://um.u-tokyo.ac.jp>

お知らせ

保健センター

8月の診療日程表

8月1日（火）～8月31日（木）の期間は、下表のとおり業務を行います。

■本郷支所（03-5841-2574）

診療科等	診療日時	対象者
内 科	月～金 10:00～12:00	学生・職員
精神神経科	月～金 10:00～13:00 14:00～16:00（予約制） *面接・相談は旧理学部1号館2階産業医室にて行います。	学生・職員
歯科口腔外科	相談のみ（診療・検診なし） 8月4日（金）13:10～15:00 8月10日（木）10:00～12:00 8月17日（木）10:00～12:00 8月29日（火）13:10～15:00	学生・職員
耳鼻咽喉科	相談のみ（診療・検診なし） 8月4日（金）10:00～12:00 8月7日（月）10:00～12:00 8月11日（金）10:00～12:00 8月18日（金）10:00～12:00 8月21日（月）10:00～12:00 8月25日（金）10:00～12:00	学生・職員
学生健診追加項目検査	8月3日（木）9:30集合 8月24日（木）9:30集合	学生
放射線取扱者健康診断	8月30日（水）10:00～11:00	学生・職員

（注意）

*保健センター本郷支所では、本年度8月に2階部分の改装工事を行う予定になっています。工事施工上の関係から、工事期間中本郷支所が全面的閉鎖となる可能性があります。8月中の本郷支所での診療・健康管理業務等のサービスはかなりの制限を受けると考えられ、用件はできる限り7月中にお済ませください。また8月中の本郷支所の業務の詳細については、工事計画が決定されましたら、保健センターホームページならびに各支所入り口に掲示しますので、ご確認ください（その後急な変更がある場合には、本郷支所入り口にまず掲示します）。

*7月28日（金）午後と7月31日（月）及び9月1日（金）は、工事開始準備及び診療再開準備のため、救急処置を除き診療全科（内科、精神科、耳鼻科、歯科）休診となります。（工事の進行状況により、休診日が若干変更となることがあります。）

*8月14日（月）・15日（火）は本郷支所一斉休業のため、全業務休止となります。

■駒場支所（03-5454-6831）

診療科	担当医	診療日	診療時間
内 科	上原	毎週（月）	10:00～12:30
	石川	毎週（火）	
	田中	毎週（水）	
	石川	毎週（木）	
	鈴木	毎週（金）	
精神神経科	坂本	8月1日（火）午前 8月4日（金）午前 8月7日（月）午前	予約制
		8月8日（火）午前 8月15日（火）午前 8月18日（金）午前	
		8月21日（月）午前 8月22日（火）午前 8月29日（火）午前	
	佐々木	8月3日（木）午前 8月10日（木）午前 8月17日（木）午前	
		8月24日（木）午前 8月31日（木）午前	
		飯田	
伊集院	8月7日（月）午後 8月21日（月）午後		
滝川	8月16日（水）午後 8月30日（水）午後		
歯科口腔外科	青柳	8月4日（金）14:00～16:00	予約制
	大木	8月7日（月）10:00～12:00	
	大木	8月14日（月）10:00～12:00	
	青柳	8月18日（金）14:00～16:00	
	松崎	8月24日（木）9:45～11:30（矯正相談）	
	大木	8月30日（水）14:00～16:00	
皮膚科	南谷	8月8日（火）14:15～15:45	
整形外科		休診	

■柏支所（04-7136-3040）

	内 科	精神神経科	対象者
月	10:00～13:00 14:00～16:00	10:00～13:00 14:00～16:00	学生・職員
火	10:00～13:00 14:00～16:00	10:00～13:00 14:00～16:00	
水	10:00～13:00 14:00～16:00	10:00～12:00	
木	10:00～13:00 14:00～16:00	10:00～12:00 14:30～16:30	
金	10:00～13:00 14:00～16:00	13:30～15:30	

*8月11日（金）及び8月14日（月）は柏地区一斉休業のため、休診となります。

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
18.6.30	岡崎 具樹	辞 職	大学院医学系研究科助教授
18.6.30	古澤 知之	辞 職（財務省大臣官房付）	大学院公共政策学連携研究部助教授
18.6.30	藤田 直也	辞 職	分子細胞生物学研究所助教授
（採 用）			
18.7.1	芳賀 信彦	大学院医学系研究科教授	
18.7.1	小野 俊介	大学院薬学系研究科助教授	厚生労働省医薬食品局審査管理課長補佐
18.7.1	服部 正平	大学院新領域創成科学研究科教授	
18.7.1	横張 真	大学院新領域創成科学研究科教授	筑波大学大学院システム情報工学研究科教授
18.7.1	柴崎 澄哉	大学院公共政策学連携研究部教授 （出向）	財務省主税局局付
18.7.1	関沢 洋一	社会科学研究所助教授（出向）	経済産業省通商政策局通商政策課企画官
（昇 任）			
18.6.16	神馬 征峰	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科講師
18.7.1	荻部 直	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
（配 置 換）			
18.7.1	長島 利夫	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科教授
（出向復帰）			
18.6.4	荒巻 俊也	大学院工学系研究科助教授	アジア工科大学院環境工学専門家

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



ご意見・ご感想投稿大募集！

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属 ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル（20字以内） ⑤本文（300字以内）

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください（⑤はなし）。

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
東京大学・日本経済新聞社共催公開シンポジウム 「課題先進国日本 —課題解決のために今何をすべきか—」 ※1339号参照	7月20日(木) 13:30~	安田講堂	http://www.adnet.ne.jp/nikkei/bizcre/20060720.html サステイナビリティ学連携研究機構 特任教授 浅尾 修一郎 TEL 03-5841-7937
GIS講習会「応用コース：データ作成」(学内限定)	7月20日(木)	柏キャンパス 総合研究棟4階470号室	空間情報科学研究センター GIS講習会 担当 古橋 training@csis.u-tokyo.ac.jp http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/training/
第33回 BLC公開講座	7月20日(木) 13:30~	本郷キャンパス 法学部22番教室 (法文1号館1階)	ビジネスローセンター (BLC) TEL :03-5805-7298 FAX :03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebclc/openseminar.html
国際学術シンポジウム 近代東アジアにおける知の生産と転換	7月21日 9:00~	駒場キャンパス 18号館ホール(一階)	総合文化研究科 村田研究室 TEL:03-5454-6418 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/topics/contents/sympo20060721.html
公共政策大学院公開フォーラム 「エネルギー・地球環境の持続性確保と公共政策」	7月21日(金) 15:00~	本郷キャンパス 小柴ホール(理学部1号館)	公共政策大学院 forum721@pp.u-tokyo.ac.jp http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2006/06/news20060628.html
東文研ワークショップ 日本近世貨幣史の再検討	7月21日(金) 10:00~	山上会館 001号室(地階)	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 黒田明伸 kuroda@ioc.u-tokyo.ac.jp
HYI Alumni Meeting in Japan 2006 : 歴史学とアジアの近代的学問編成	7月22日(土) 13:00~	駒場キャンパス18号館 1Fホール	アメリカ太平洋地域研究センター seminar@cpas.c.u-tokyo.ac.jp http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/
国際シンポジウム Frontiers of Human Brain Imaging. —脳画像最前線—	7月24日(月) 13:00~	医学部 教育研究棟13階第6セミナー室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
第1回「革新的シミュレーションソフトウェアの研究 開発」シンポジウム ※22ページ参照	7月27日(木) ~28日(金)	生産技術研究所 総合研究実験棟2階 コンベンションホール	http://www.rss21.iis.u-tokyo.ac.jp 生産技術研究所計算科学技術連携研究センター事務局 Tel : 03-5452-6661 Fax : 03-5452-6662 E-mail : office@rss21.iis.u-tokyo.ac.jp
大学経営・政策研究センター公開シンポジウム 「現代日本の大学進学と政策」 ※23ページ参照	7月29日(土) 9:30~	学術総合センタービル2F 中会議室1・2	大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター Phone & Fax: 03-5841-3993 E-mail: daikei@p.u-tokyo.ac.jp http://www.p.u-tokyo.ac.jp/crum/
第52回小石川植物園市民セミナー 「夏の植物観察会」 ※1339号参照	7月29日(土) 13:00~	理学系研究科附属植物園日光分 園(日光植物園)庁舎前に集合	理学系研究科附属植物園 杉山宗隆助教授 TEL: 03-3814-0368 E-mail: koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp
日独学生交流セミナー2006	募集期限:7月31日 開催日:9月7日~ 22日	東京とその周辺	幸田 薫 教授 koda@boz.c.u-tokyo.ac.jp http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/nichidoku/boshu06.htm
国際シンポジウム 「倫理コンサルテーションの現状と展望」	8月5日(土) 16:00~	医学部 教育研究棟14F 鉄門記念講堂	大学院医学系研究科 生命・医療倫理人材養成ユニット
東洋文化研究所 平成18年度第3回定例研究会 報告・韓国人と旅した中国 —グローバルズムとナショナルリズムのはざまで—	9月14日(木) 14時~	赤門総合研究棟 地下1階 第2演習室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
空間情報科学研究センター 2006年度第9回年次シンポジウム —CSIS DAYS 2006— ※1339号参照	10月4日(水)、 5日(木)	柏キャンパス 総合研究棟(6階)	http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/ 空間情報科学研究センター 第9回年次シンポジウム受付係 E-mail: csisdays06-office@csis.u-tokyo.ac.jp
外国法の調べ方セミナー —アメリカ法—	10月6日(金) 15:00~	附属図書館3階会議室	ビジネスロー・比較法政研究センター 03-5841-3198
第3回国際シンポジウム Linguapax Asia Symposium 2006	10月7日(土)	駒場キャンパス	Linguapax Asia info@linguapax-asia.org http://www.linguapax-asia.org/
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
総合研究博物館小石川分館 常設展示「驚異の部屋—The Chambers of Curiosities」	3月9日(木)~	総合研究博物館小石川分館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/annex/
駒場博物館特別展 「聖書に生きる—トラーの成立からユダヤ教へ」 ※1337号参照	5月25日(水) ~7月23日(日) 10:00~18:00開館 毎週火曜日 休館	駒場博物館1階 美術博物館展示室	問い合わせ先: 駒場博物館 TEL:03-5454-6139 FAX:03-5454-4929 HP: http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/2006.html
法学部連続講演会「高齢化社会と法」 ※1334号参照	5月13日(土) 6月17日(土) 7月15日(土)	法学政治学系総合教育棟101教 室(通称:法科大学院ガラス棟)	e-mail:icclpblo@j.u-tokyo.ac.jp FAX:03-5805-7143
特別展示『時空のデザイン』展 ※26ページ参照	7月22日(土)~10月 9日(月・祝) 月曜休館(祝日の場 合開館、翌日休館)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル 03-5777-8600 Fax. 03-5841-8451
新規収蔵展示 サンゴ礁の貝類——川口二郎博士コレクション	7月22日(土) ~10月9日 (月・祝日)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル 03-5777-8600 Fax. 03-5841-8451
APRU Distance Learning and the Internet 2006 Conference テーマ: Technology Enabled Global Knowledge Structuring	11月8日(水) ~10日(金)	農学部弥生講堂 一条ホール	http://apru2006.dir.u-tokyo.ac.jp/

Contents

特別記事

- 02 生命科学全体の統括・構造化を目指して
—生命科学教育支援ネットワークの活動

NEWS

一般ニュース

- 04 事務職員海外研修報告
- 06 体験型防災訓練（主催：本郷消防署）開催される
- 07 平成18年度調理担当者研修会開催される
- 08 「アジアの食文化とグローバル化」
—談話会の開催
- 09 平成18年度外国人学生数

部局ニュース

- 14 総合研究棟竣工記念式典を開催
- 15 大学総合教育研究センター設立10周年及び
MEET設立記念シンポジウム開催
- 15 工学系等地震訓練が行われる
- 16 外国人留学生等との懇親会開かれる
- 17 新領域創成科学研究科の柏キャンパス移転
が完了！

コラム

- 18 噴水 初心者水泳講習会を終えて
- 18 龍岡門横丁噺 第1回
- 19 コミュニケーションセンターだより No.19
- 19 調達本部です 第12回
- 20 Flags運動部紹介 No.18
- 21 未来の東大の土台造りを今
～再び東京大学基金へのご協力をお願い～

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 22 第1回「革新的シミュレーションソフトウ
ェアの研究開発」シンポジウム開催のお知
らせ
- 23 大学経営・政策研究センター公開シンポジ
ウム「現代日本の大学進学と政策」のご案内

募集

- 23 東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の募
集について

お知らせ

- 25 “情報探索ガイダンス” 各種コース実施の
お知らせ
- 26 「教養学部報」第495（7月5日）号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—
- 26 『時空のデザイン』展のお知らせ
- 27 保健センター 8月の診療日程表

事務連絡

- 28 人事異動（教員）

EVENT LIST

31 本郷キャンパスガイド

32 キャンパスマップ

◆表紙写真◆

柏キャンパス全景（17ページに関連記事）

編集後記

今回から、連載コラムのラインナップに『龍岡門横丁噺』が加わり
ました。本郷キャンパス龍岡門脇の広報センターにまつわるエピソード
を中心に、知る人ぞ知る東大豆知識も紹介していく予定です。
折りしも、広報センターの看板が人目を引く明るい色にリニューアル
されたばかり。学内の皆さんも一度、足を踏み入れてみてはいかが
ですか？（し）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に
広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会
までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び
意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No.1340 2006年7月12日
東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 TEL：03-3811-3393
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
URL：http://www.u-tokyo.ac.jp

本郷 キャンパスガイド

キャンパス内に点在するレストランやカフェは、東大という「街」を彩る大切なアクセント。つい最近でも、キャンパス内に新たな店舗が開店しています。そこで、今回は特別に本郷のキャンパスガイドを掲載します。打ち合わせに、お食事に、どうぞ、ご活用ください。

	<p>スターバックス コーヒー Starbucks Coffee 03-5842-5716 【 87538 】 平日 8:00-20:00 土曜 8:00-19:00 日曜祝日 8:00-19:00</p>		<p>レストラン 松本楼 Restaurant "Matsumoto-no" 3 03-5805-5608 平日 11:00-21:00 (L.O. 20:30) 土曜 11:00-17:00 日曜祝日 -</p>		<p>レストラン 松本楼 Restaurant "Matsumoto-no" 3 03-5805-5608 平日 11:00-21:00 (L.O. 20:30) 土曜 11:00-17:00 日曜祝日 -</p>		<p>スターバックス コーヒー Starbucks Coffee 03-5842-5716 【 87538 】 平日 8:00-20:00 土曜 8:00-19:00 日曜祝日 8:00-19:00</p>
	<p>ドトールコーヒーショップ Doutor Coffee Shop 5 03-5684-7735 平日 8:30-19:00 土曜 9:00-19:00 日曜祝日 -</p>		<p>サブウェイ SUBWAY 2 03-3814-4556 【 87539 】 平日 10:00-20:30 土曜 10:00-17:00 日曜祝日 - イベントにあわせて臨時休業・臨時休業の場合があります。</p>		<p>レストラン 松本楼 Restaurant "Matsumoto-no" 3 03-5805-5608 平日 11:00-21:00 (L.O. 20:30) 土曜 11:00-17:00 日曜祝日 -</p>		<p>生協 農学部食堂 Co-op Refectory "Nougakubu Shokudo" 1 03-5803-9761 【 27993 】 平日 11:00-20:00 土曜 - 日曜祝日 - 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>そば・うどん ざ・もーる Noodle Restaurant "The Mall" 9 03-5841-7947 【 27947 】 平日 11:00-15:00 土曜 - 日曜祝日 -</p>		<p>レストラン 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>		<p>レストラン 松本楼 Restaurant "Matsumoto-no" 3 03-5805-5608 平日 11:00-21:00 (L.O. 20:30) 土曜 11:00-17:00 日曜祝日 -</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>タリーズコーヒー Tully's Coffee 13 03-5842-2166 平日 7:00-20:00 土曜 7:00-20:00 日曜祝日 7:00-20:00</p>		<p>レストラン ねむの樹 Restaurant "Nemu-no-ki" 14 03-3811-7957 【 31873 】 平日 8:00-21:00 土曜 8:00-21:00 日曜祝日 8:00-21:00</p>		<p>レストラン ねむの樹 Restaurant "Nemu-no-ki" 14 03-3811-7957 【 31873 】 平日 8:00-21:00 土曜 8:00-21:00 日曜祝日 8:00-21:00</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>食堂 三四郎 Restaurant "Sanshiro" 17 03-3811-1955 【 35924 】 平日 10:30-18:30 土曜 8:30-17:00 日曜祝日 - 地下1階にあります。On the basement floor.</p>		<p>レストラン ねむの樹 Restaurant "Nemu-no-ki" 14 03-3811-7957 【 31873 】 平日 8:00-21:00 土曜 8:00-21:00 日曜祝日 8:00-21:00</p>		<p>レストラン ねむの樹 Restaurant "Nemu-no-ki" 14 03-3811-7957 【 31873 】 平日 8:00-21:00 土曜 8:00-21:00 日曜祝日 8:00-21:00</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>コミュニケーションセンター Communication Center 18 03-5841-1039 【 21039 】 平日 10:30-18:30 土曜 10:30-18:30 日曜祝日 - 赤門の隣でJTEC/インフォメーションセンターが併設されています。The University of Tokyo is located next to the Akamon (Red Gate).</p>		<p>東京大学総合研究博物館 University Museum B 03-5777-8600 AD-ダイヤル/Information Dial 営業時間: 10:00-17:00 (入館は16:30まで) Hours open: 10a.m.-5p.m. (Admittance by 4:30p.m.) 入館料: 無料 Admission fee: Free 休館日: 月曜日 (月曜日の場合は臨時休館日を除く) Days the Museum is closed: Mondays (In case and the next day is closed instead.)</p>		<p>東京大学総合研究博物館 University Museum B 03-5777-8600 AD-ダイヤル/Information Dial 営業時間: 10:00-17:00 (入館は16:30まで) Hours open: 10a.m.-5p.m. (Admittance by 4:30p.m.) 入館料: 無料 Admission fee: Free 休館日: 月曜日 (月曜日の場合は臨時休館日を除く) Days the Museum is closed: Mondays (In case and the next day is closed instead.)</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>売店 8:00-21:00 10:00-17:00 10:00-17:00 第二購買部 10:00-18:00 浅野店 10:00-18:00 農学部店 10:00-20:00 御殿下/バンジョブ 9:00-16:00 Kショップガーデン 6:00-23:00 6:00-23:00 6:00-23:00</p>		<p>東京大学内郵便局(入院棟) 郵便 9:00-17:00 貯金・保険 9:00-16:00 ATM(郵便局・銀行) 8:00-20:00 9:00-17:00 9:00-17:00 郵便局(農学部) 9:00-19:00 9:00-12:30 三井住友銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00 三菱東京UFJ銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00</p>		<p>東京大学内郵便局(入院棟) 郵便 9:00-17:00 貯金・保険 9:00-16:00 ATM(郵便局・銀行) 8:00-20:00 9:00-17:00 9:00-17:00 郵便局(農学部) 9:00-19:00 9:00-12:30 三井住友銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00 三菱東京UFJ銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>
	<p>文芸・パソコン・印刷等 8:00-16:30 第一購買部 10:00-18:30 トラベルセンター 10:00-18:00 本郷トラベルセンター 10:00-18:00 近畿日本ツーリスト 10:00-18:30</p>		<p>東京大学内郵便局(入院棟) 郵便 9:00-17:00 貯金・保険 9:00-16:00 ATM(郵便局・銀行) 8:00-20:00 9:00-17:00 9:00-17:00 郵便局(農学部) 9:00-19:00 9:00-12:30 三井住友銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00 三菱東京UFJ銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00</p>		<p>東京大学内郵便局(入院棟) 郵便 9:00-17:00 貯金・保険 9:00-16:00 ATM(郵便局・銀行) 8:00-20:00 9:00-17:00 9:00-17:00 郵便局(農学部) 9:00-19:00 9:00-12:30 三井住友銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00 三菱東京UFJ銀行(大講堂) 8:45-19:00 9:00-17:00</p>		<p>生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo" 6 03-3812-7336 【 27997 】 平日 11:00-21:00 土曜 11:00-14:00 日曜祝日 11:00-14:00 地下1階にあります。On the basement floor.</p>

国立大学法人東京大学 〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号 Tel:03-3812-2111(代表)
The University of Tokyo 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8654 Japan Tel:81-3-3812-2111
PDF: http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/index.html Project K-7 TODA 2006.07.10 Ver1.8



- レストラン Restaurant
- コミュニケーションセンター&東京大学総合研究博物館 Communication Center & University Museum
- 売店 Campus Store
- 文具・パソコン・印刷等 Stationery, Computer Accessories, Printing Services etc
- トラベルセンター Travel Center
- スポーツショップ Sports Equipment Store
- 花屋 Florist
- 書店 Bookstore
- 理髪店 Barbershop
- みずほ銀行 ATM Mizuho Bank ATM
- 三井住友銀行 ATM Sumitomo Bank ATM
- 東京三菱UFJ銀行 ATM Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ ATM
- 郵便局 Post Office
- 郵便局 ATM Post Office ATM
- ポスト Postbox

東京大学キャンパスマップ

The University of Tokyo Campus map

